

室神山

学校便り

平成31年1月15日号

江津市立江津東小学校長 安食 徹

平成31年が明け、3学期が始まりました。皆様にとりまして、今年一年が実り多き年になりますよう、お祈り申し上げます。今年も本校の教育活動に対しまして、引き続きご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

始業式で話したこと 以下のような内容を話しました。

皆さん、明けましておめでとうございます。今日から3学期が始まりました。2019年という新しい年も始まっています。今年が平成31年、新年度に入ったら、5月から新しい元号になります。平成の最後の年、正確に言えば最後の4ヶ月間が始まります。本当に新しい時代の幕開けとなるかもしれません。みんなでワクワクしていきましょう。そして「亥年（いのしし年）」です。猪は、猪突猛進で知られています。方向を決めたら一直線に進んでいく動物です。少々の邪魔や障害物は気にせず、蹴散らしながら進んでいきます。私も見たことがあります、すごい迫力です。皆さんも今年は目標に向かって突き進んでいってください。

目標もいろいろありますが、心の目標としては、いつも言っている「感謝・尊敬・寛容」の3つを忘れないでください。それは「人権感覚を磨く」ということにもつながっています。人権感覚の優れた人は、簡単に不平不満を口にしたり、人を悪いと決めつけて批判したりしないと思います。あらゆる『人・もの・こと』に対して良い面を見ようと努力する強さ、笑顔を忘れず周りに優しい眼差しを向けることができるたくましさ柔軟さを持っていると思います。そんな人に成長できるように、「感謝・尊敬・寛容」の心を大切に、がんばってください。江津東小学校が目指しているのは『ひとに、やさしくできる子 がんばって、学ぶ子 しんが強く、たくましい子』です。3学期は特に、しんが強く、たくましい子を目指して頑張りましょう。自分の心の芯がしっかりできてくると、心は簡単には折れなくなります。自分の都合の悪いことを簡単に人のせいに行ったり、逃げたりしなくなります。もちろん意地悪なんかなくなるでしょう。人を尊敬したり、許したりすることも容易にできるようになってきます。誠実で正直で温かな人柄が周りに伝わるようになってくると思います。意地とか見栄とかとは少し違うからです。「本当に自分自身のやりたいことがわかっている」「自分自身を本当に大事にするのはどういうことかわかっている」感じかと思います。これは自分としっかり向き合う中でできてくるものです。

感謝

これは『感謝』という字に見えますが、実は『ありがとうございます』という言葉でできています。浅利の文化祭のとき、あさりこども園のブースでもらいました。『感謝』=『ありがとうございます』ということがよく表されていると思い、とても気に入りました。昇降口のところに貼っておき

ますので、見てください。

さて、心の芯を作る方法はいっぱいあると思いますが、一番易しくて手っ取り早いのは、感謝することだと思います。『当たり前』を『有り難う』に変える力が身につけば、自分の元気やたくましさを高めることができます。発明王のエジソンは失敗に対して「失敗じゃなくて、その方法がうまくいかないことがわかったんだから成功なんだよ」と言ったそうです。何でもとらえ方です。日常生活では、注意されたとき少しムツとしても、自分の心をコントロールして、「教えてくれて、**ありがとう**」と返せるようになったら、簡単には傷つかない、強いたくましい心に成長してきている証拠だと思います。『しんが強く、たくましい子』を目指して、頑張っ、願生っ、顔晴っ、いきましょう。

さあ、今はこうしてみんな当たり前のよう集まっていますが、6年生と一緒にいられるのも3月までです。3学期は、6年生にとっては最後の小学校生活、5年生以下の人にとっては、6年生と一緒にいられる最後の学期になります。また担任の先生とも一緒に過ごす最後の学期になります。3学期は短く、一日一日が大切な日です。そう考えると3学期は当たり前の学期ではなく、特に有り難い学期だと思えてきませんか。日々、出会いを大切に、一生懸命に生きていましょう。時間を無駄遣いするのはもったいない。登校日は今日を入れても51日、6年生には47日しかありません。それを心に刻んで、6年生を中心にみんなで協力し合いながら、「ありがとう」の溢れる素晴らしい3学期にしていましょう。

書き初め練習会



12月13日（木）と14日（金）に、3年生以上が書き初め練習会を行いました。講師の方に来ていただき、丁寧

に指導していただきました。子どもたちは集中して、一生懸命に取り組んでいました。本当にありがとうございました。

ご指導の下、書き初めに取り組んだ児童の力作は、1月15日（月）から授業公開日の20日（日）まで学年の所定の場所に展示してあります。どうぞご鑑賞ください。

江津市スポーツ少年団交歓体育祭

12月16日（日）に、スポーツ少年団の交歓体育祭が行われました。開会式終了後、江津東小学校スポーツ少年団が前に出て、ラジオ体操を行いました。きびきびとした動きで、立派に大役を果たしました。



小・中学校合同 人権・同和教育研修会



12月18日（火）に本郷由美子さんを招き、小・中学校合同の人権・同和教育研修会が開かれました。前半は本校の5・6年生児童、江東中学校の生徒、郷田小学校の5年生児童も参加し、真剣に耳を傾けていました。女子中学生の中には涙を流している多感な子の姿も見られました。我が子を凄惨な事件で失うという経験をし、悲しみに打ちひしがれながらも、それを乗り越え前向きに生きる本郷さんの力強さ、命に対する深い捉え方など様々なものが伝わってきました。

郷さんの力強さ、命に対する深い捉え方など様々なものが伝わってきました。

人権・同和教育の基盤となる、『命』を大切にすることについて考えを深める良い機会となりました。参加した児童はそれぞれに考えを深め、自分なりの感想を持ったと思います。今回の学びを通して、人権について考え、人権感覚を高め、日常生活に活かし、みんなで素敵な学校、校区にしていけたらと願っています。

児童の感想（○内数字は学年）をいくつか紹介します。

⑤今日はいい話をしてくださってありがとうございました。ぼくは人が人を傷つけるけど、救うのも人だということがわかりました。これからも命を大切に生きていきたいです。本郷さんは子供が亡くなったのに許してあげてすごいなと思いました。ぼくなら絶対許してないと思います。本郷さんは困っている人などと話しているのですすごいなと思いました。

⑤昨日はいい話を聞かせてくださってありがとうございました。ぼくが話を聞いて分かったことは人を傷つけるのは人、人を救うのも人ということです。本郷さんは自分の子どもを傷つけた犯人を、よく許したなと思いました。ぼくだったら許さないのに許した本郷さんはすごいなと思いました。ぼくは死ぬまでもっと命を大切にしていこうと思いました。それともっと友達にマイナスのストロークを使わず、プラスのストロークをたくさん使っていこうと思いました。昨日は本当にありがとうございました。

⑥本郷さんの命の大切さのお話を聞いて、命の大切さ、命の尊さを学びました。とてもためになるお話でした。他の人の命も大切にしようと思いました。他の人の命も、自分の命も同じ価値なので、相手の立場をいいな～とったり、いやだな～と思うのはダメだな～と思いました。もし、困っている人、悩んでいる人、絶望的な人、そんな人たちに優しく声をかけられるような人になりたいです。優希ちゃんの残してくれた68歩を一步ずつ優希ちゃんの分まで進んでいきたいです。本郷さん、ありがとうございました。

⑥私はああいう事件にあった人のお話を聞くのは初めてでした。だから、とっても命が大切なことを改めて知りました。私もおばあちゃんが亡くなったときは、とても悲しくて、とっても泣きました。だから本郷さんも、とっても悲しかったんだなと思いました。でも本郷さんはとってもすごいと思いました。なぜかという、とっても悲しかったと思うのに、そのあとに同じような経験をした人に手を握ってもらったり、肩を叩いてもらって、元気づけてもらい、今ではそのような人たちのために働いていてすごいなと思いました。本当にありがとうございました。

うそつくな・親切に…幼少期にしつけ、年収高め

かなり前の記事ですが毎年紹介してきました。しつけの影響力、大切さが分りますので再度紹介します。

「うそをつかない」「他人に親切にする」「ルールを守る」「勉強をする」という4種類のしつけを子どもの頃に受けた人は、どれも受けていない人より、平均年収が約86万円も高い。こんな調査結果を神戸大経済経営研究所の西村和雄特命教授らの研究グループが発表した。グループはインターネット調査会社に登録した人から無作為に選んだ9万人に調査票を送り、仕事を持つ1万3164人から回答を得た。幼少期に周りの大人からよく言われたことを8つの選択肢から選んでもらい、年収を比較した。その結果、「うそをついてはいけない」としつけられた人の年収は、平均約448万円でも高く、しつけられた覚えがない人(同約398万円)を50万円上回った。「他人に親切にする」「ルールを守る」「勉強をする」も、しつけを受けた場合の方が、年収が約29万～15万円高かった。さらに、これら4つのしつけを全て受けた人の平均年収は約479万円、ひとつも受けていない人(約393万円)と比べ、約86万円高かった。一方、「あいさつをする」や、「ありがとうと言う」といったしつけは、年収の高さとはほとんど関係なかった。【平成25年9月20日(金)14時33分配信 読売新聞】

4つのしつけを全て受けた人が収入が最も高くなるということは、身につけた学力を社会に出てから、上手に発揮していく上で、「うそをつかない」「他人に親切にする」「ルールを守る」という生き方が必要なことを示しているのだと思います。

学力は確かに大事です。しかし、正直さ、誠実さ、親切心、思いやり、公德心などのベースをしっかり育てこそ、学力が生きるのだと言えるのでしょうか。そのような教育を目指し、職員一同、力を合わせて頑張っていきたいと思います。また、「あいさつをする」や「ありがとうと言う」といったしつけは、年収の高さとはほとんど関係なかったとありますが、幸福度や人間関係の充実度とは、相関関係が高いはずだと想像できます。どれも大切なしつけであることは間違いのないと思います。

お知らせ

児童会が中心に集めた赤い羽根共同募金4681円を、1月に社会福祉協議会に渡します。子どもたちの温かい気持ちのこもった浄財として社会福祉に役立てられます。